

---

日本図書館文化史研究会  
ニューズレター

第91号 2005年2月12日

日本図書館文化史研究会

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1  
明治大学司書・司書教諭課程  
郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黑浩司

ファックス

電子メール [oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)

---

■■ 目次 ■■

日本図書館文化史研究会 2004 年度第 3 回研究例会のご案内	2
創立 25 周年記念 「図書館人物伝 (仮称)」原稿募集について	4
『ニューズレター』原稿募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2005 年度研究集会・総会のご案内	5
日本図書館文化史研究会 2005 年度研究集会個人発表募集のお知らせ	5
2004 年度第 2 回研究例会報告	6
『図書館文化史研究』第 23 号原稿募集のお知らせ	
研究例会発表募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2004 年度研究集会・総会決算について	8
大阪府立図書館の歩んできた道 (奥泉和久)	9
運営委員会通信	11
事務局だより	12
会費納入のお願い	
住所変更のご連絡をお願いします	
会員動向	

日本図書館文化史研究会

2004 年度第 3 回研究例会のご案内

2004 年度第 3 回の研究例会を、下記のように開催します。会場は第 2 回と同様に明治大学です。是非ともご参加ください。

記

- 日 時 3 月 12 日 (土) 14 時～16 時
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン 8 階 司書・司書課程室  
※ アカデミーコモンの位置、また交通等は 3 ページ掲載の地図  
をご参照ください。
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、ま  
たは電子メールでお申込ください。
- 申込締切 3 月 4 日 (必着) でお願います。
- 内 容

【発表 1】

- 発表者

小黑 浩司 (作新学院大学)

- 発表題名

満鉄児童読物研究会の活動

- 発表要旨

南満洲鉄道株式会社 (満鉄) は沿線附属地で多種多様な学校を経営していた。今回の発表では、それら満鉄経営の諸学校のうち、小学校における学校図書館の活動状況の一端を紹介する。

1934 年度、小学校の読書指導・学校図書館担当者の研修組織として、児童読物研究会が発足した。この研究会では、新刊・既刊の児童図書の推薦、学校図書館運営指針の作成、指針に基づいた学校図書館経営の実践と検証などが行われた。

【発表 2】

- 発表者

塚原 博 (実践女子大学)

- 発表題名

児童図書館における科学あそびの歩み

● 発表要旨

子どもと科学の本（科学読物）を結びつけるための科学あそびの歴史を、おおよその枠組みとして 3 段階に区分して概要を述べる。時代区分として、その前段の（0）子どもと科学の本を結びつける方法として科学あそびを考案した時期を経て、（1）子ども文庫（市民活動としての私設のミニ図書館）での科学あそびの導入期、（2）個別の児童図書館での科学あそびの導入期、（3）児童図書館でのその後の普及期（県レベルの研修会などでの科学あそびの研修を契機に普及）として、その間に主に科学読物研究会の会員と司書が関わりを持ってきた点などを報告する。

会場案内

## 創立 25 周年記念

### 「図書館人物伝（仮称）」原稿募集について

本研究会は、きたる 2007 年に創立 25 周年を迎えます。『ニューズレター』前号でお知らせしたように、本研究会ではこれを記念した諸事業を行うことになりました。

このうち『図書館文化史研究』第 24 号（2007 年 9 月頃発行予定）を「創立 25 周年記念号」として増ページ発行する件について、先の運営委員会で特集テーマを検討し、「図書館人物伝（仮）」とすることを決定しました。

つきましては、「創立 25 周年記念号」へのご投稿を希望される方は、氏名・所属・連絡先（住所、電話、メールアドレス等）・取り上げたい人物を明記して、事務局までお申し出ください。本年末を目処に採録する人物、ならびに執筆者を確定する予定です。

なお、原稿の分量は 400 字詰原稿用紙換算で 50 枚程度、締め切りは 2006 年 12 月末日となります。多数の原稿が集まった場合、単行本での出版も計画しています。奮ってのご応募をお待ちしています。

また、「記念号」で取り上げるべき人物などにつきまして、会員の皆様からのご提案・ご要望などをお待ちしています。「記念号」に限らず、25 周年事業についてのご意見等も事務局までお寄せください。

### 『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

次号（92 号）掲載を希望される場合、2005 年 3 月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。

今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思えます。会員・非会員を問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

日本図書館文化史研究会  
2005 年度研究集会・総会のご案内

2005 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、日本図書館協会との共同開催で、おおむね下記のように開催することになりました。多くの方のご参加を期待します。

なお、内容等の詳細については、次号以降の『ニューズレター』で、お知らせします。

記

- 日 程 2004 年 9 月 17 日（土）・18 日（日）  
第 1 日：シンポジウム「歴史的図書館用品（仮）」  
第 2 日：個人発表・総会
- 場 所 日本図書館協会会館  
<http://www.jla.or.jp/kaikan.htm>
- 参加費 1,000 円程度を予定

日本図書館文化史研究会  
2005 年度研究集会個人発表募集のお知らせ

上記研究集会・第 2 日（9 月 18 日）での個人発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記事務局までお申し込みください。

発表時間は質疑応答を含めて 1 件 1 時間程度を予定しています。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200 字程度）

## 2004 年度第 2 回研究例会報告

実施日：2004 年 12 月 11 日

会場：明治大学アカデミーコモン

12 月 11 日、2004 年度第 2 回の研究例会が、明治大学アカデミーコモン A-9 会議室を会場に開催されました。参加者は 11 名でした。

### 【発表 1】

- 発表者

宮原 志津子（東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室博士課程）

- 発表題名

東南アジアの公共図書館における情報サービスの進展

- 発表要旨

今回の発表では現地調査を元に、東南アジア 4 カ国の公共図書館で提供されているサービスの電子化や情報サービスの実態について紹介した。

東南アジアでは各国の経済状況や財源などによって、図書館サービスの格差が生まれており、特に情報サービスは大きな差が生じている。十分な財源を賄えるシンガポールでは大半の図書館業務が電子化され、IT 化によってサービスの新たな局面を迎えている。同じく図書館の IT 化を目指すマレーシアでは、企業と連携することで情報サービスの財源を確保している。一方、伝統的サービスの提供すら難しいインドネシアやフィリピンでは、財団が情報サービス実現のための援助を行ったり、独自の図書館を設立するなど、地域に図書館サービスを維持する大きな力となっている。

### 【発表 2】

- 発表者

松本 直樹（東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室）

- 発表題名

埼玉県内公立図書館にみる施策の波及

- 発表要旨

公立図書館は社会の変化にともない、新たな施策を検討する必要がある。その場合、自らの図書館が置かれた環境や自治体内のさまざまな要因を勘案すると同時に、先進自治体、周辺自治体、県立図書館等の動向も参照する。

本発表では、はじめに地方自治体の政策波及研究、アメリカの先行研究、イノベー

ション研究をレビューし、施策形成とその波及、情報伝達と態度決定などについて検討した。続いて埼玉県内の公立図書館の施策形成を促した組織として、埼玉県公共図書館協議会と図書館問題研究会埼玉支部を取り上げ、歴史的にその役割を分析した。

その結果、前者は調査、情報提供などによって施策採用を促す活動が見られた。また後者は、個人間の情報交換の基盤を提供した点で一定の役割を果たしことが明らかとなった。

### 『図書館文化史研究』第23号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第23号の原稿を募集中です。

原稿の締切は2005年12月末日です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いいたします。

### 研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回（6月頃、12月頃、3月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め1件1時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

日本図書館文化史研究会

2004 年度研究集会・総会決算について

本研究会の 2004 年度研修集会・総会が、9 月 11・12 日の両日、京都精華大学を会場に開催されました。『ニューズレター』前号でご報告したように、今回の研究集会・総会も、皆様のご助力によりまして、盛会裏に終えることができました。改めて御礼を申し上げます。

この研究集会・総会の会計処理が済みましたので、以下にその概略をご報告します。今回は多数の参加者があり、また京都精華大学より多額の補助を頂戴したこともあり、剰余金が発生しました。この剰余金は研究会の一般会計に繰り入れさせていただきます。

<b>収入</b>		<b>361,460</b>	
	<b>金額</b>	<b>備考</b>	
<b>研究集会参加費</b>	<b>102,000</b>		
会員	36,000	24 名×1,500 円 33 名×2,000 円 (2 日目参加者 2 名)	
非会員	66,000		
<b>懇親会参加費</b>	<b>155,000</b>	<b>31 名×5,000 円</b>	
<b>予稿集売り上げ</b>	<b>4,460</b>		
<b>京都精華大学からの補助</b>	<b>100,000</b>		
<b>支出</b>		<b>328,340</b>	
	<b>金額</b>	<b>備考</b>	
<b>『予稿集』等作成費</b>	<b>63,345</b>		
<b>懇親会支払い</b>	<b>160,000</b>	<b>32 名分</b>	
<b>テープ起こし費</b>	<b>52,930</b>		
<b>事務局経費</b>	<b>52,065</b>		
<b>剰余金</b>	<b>33,120</b>	<b>研究会一般会計へ繰り入れ</b>	

## 大阪府立図書館の歩んできた道

奥泉 和久（横浜女子短期大学図書館）

2004年2月、大阪府立図書館創立百周年記念事業の一環として、同館の歴史をまとめた『中之島百年 大阪府立図書館のあゆみ』が刊行された。大阪府立図書館の正史としては、先に、『大阪府立図書館五十年史略』（1953）（以下「五十年史」）があり、これが50年ぶりに書き換えられたことになる。

筆者は、大阪府立図書館について、永末十四雄氏が「結局帝国図書館に追随し、またそれに拮抗する近代的な都市施設とする方向を選択していったのである」（『日本公共図書館の形成』（JLA、1984）と評した印象を同じように持ち、同館には歴史的に解明すべきいくつかの課題があるのではないかと考えている。永末氏が論じたのは、草創期からまもなくして大阪府立図書館にも分館計画が立てられ、府下全域に対するサービス構想が現実化した時期である。それが結果的に本館、書庫の相次ぐ増築へと向かうことになるのであるが、そのことが同館の住民サービスのあり方を決定づけたのではないか、というものであった。

さて、本書には「序章を記述するにあたって」と記すなかで「現在の図書館という存在をひとたび相対化し、今一度歴史の流れのなかに図書館のすがたへと達していく過程を写してみる」（序章、p.4）と述べられている。これはたしかに「序章を記述する」ためと限定的に記されたのではあるが、本書の全体に通じるものがあり、この編集方針によって100年の叙述が成されているように思われる。

このことは現在の価値観にもとづいて歴史をとらえるのではなく、ある時代のなかに図書館を位置づけ、事実を丁寧に辿ることで図書館と社会との関係を浮き彫りにしようということのようだ。それはたとえば、商業都市大阪、大阪文化と称えられる独特の風土のなかで大阪図書館が産声をあげ、発足時に数多くの資料を寄贈された経緯のことであろう（「第1章、5-草創期の蔵書」、蔵書の内容は「資料編、2 寄贈本一覧」に結集）。これが現在に至る大阪府立図書館の資料形成にも大きく影響し、独自のコレクションを形成する要因ともなり、『大阪本屋仲間記録』（1974-93）翻刻出版を実現させたことともつながっている。

大阪府立図書館の設立については、寄贈者住友吉左衛門が市島精一（当時東京工業大学学長）を介して田中稲城に、欧米における図書館寄附実情の照会を依頼したこと、田中から市島宛ての書簡が掲載され、田中が住友に「図書館創設考案」なるものを示していたことが述べられている。住友がこの田中案を検討し、大阪府に対して図書購入のための準備金などを求めたことも明らかにされる。

大阪府立の方向性を決定的にしたことについて。「五十年史」は「4 本館の発展」において、同館の本館、書庫の増築を機に、参考図書館としての方向性を鮮明にしたと述べる。しかし、「五十年史」は、そのことを「経営面革新」と言うだけで、なぜ大阪がたとえば山口県のように広く府域住民を視野に入れたサービスを展開する方向へと進まなかったのかは明らかにされていない。

これに対し『中之島百年』は、館長今井貫一による分館計画案（1911年9月）を紹

介し、欧米における図書館視察の調査目的を以下のように記している。

1 図書館、通俗図書館、巡回文庫の設備

1 児童、少年ノ読物及其遊戯ニ関スル公共施設（以下略）

しかし、帰国後今井は分館計画を撤回し本館の充実をはかる方向を目指す。それはあまりにも欧米とこの国との図書館の落差に衝撃を受けたためだとされ、その結果、今井による「通俗図書館設置計画案」は、大阪市へと移されることになった、と説明される。

戦後も見ておこう。「第5章 府立図書館サービスの模索」には、1950年代以降の図書館界のなかに大阪府立図書館が位置づけられ、府下へのサービス体制が整備される時期と記される。そのはじめの見出しが「市民生活に根づいた図書館へ」である。さらには『難波津』や『大阪府立図書館紀要』など利用者への広報活動がサービスの開示と直結していること、そしてそのために職員の研鑽が不可欠のものとなり研修制度の確立へと発展し、その延長上に『大阪府立図書館参考事務必携』という大部のレファレンス・マニュアルが生まれたことなどが紹介される。

ここでもう一度、筆者の関心に戻る。今井の帰国後、大阪府立図書館が独自の道を歩んだ理由について、帝国図書館が東京にあり関西における帝国図書館の不在のゆえか、は定かではない。だが、大阪に帝国図書館を望む声は、府立図書館設立以前にもあった（内藤湖南「図書館に就て」『大阪朝日新聞』（1900.11.29-30）、竹林熊彦「大阪と第二の官立図書館」『図書館雑誌』（35巻8号 1941.8）から引用）。今井が内藤に、図書館のことを相談していた経緯は『中之島百年』にも記述がある（p.128）。だが、ここでは何のことについて相談したのかまでは記録されていない。大阪府立図書館の行方に影響があったのか、なかったのか興味深いのだが、これ以上は『中之島百年』の守備範囲を超えるのであろうか。

あとひとつふたつ。大阪府立図書館は有料で開始された。それがいつまでつづいたのか、その間の料金の変遷を一覧できるものは検討されなかったのだろうか。つまり無料制についての大阪府立の基本的な考え方。また、書架の公開に関する記述が乏しいように思われた（p.217に「1967年当時の主題別閲覧室の概要」があるが、これ以前についてのこと）。

最後になったが、『中之島百年』は、歴代館員の努力の結晶と言っても過言ではない。たしかに、長年保存された貴重な史料が図書館の歴史の骨格を成すのだが、『大阪府立図書館紀要』などに蓄積された館員の研鑽の成果がその骨格を縦横に補強している。『難波津』の1頁にコラムのように記された記事は、歴史の糸を辿る作業にも匹敵し、あるときはレファレンスの懐刀にもなる。これらのことは特筆されてよいであろう。

「第2編 資料編」は歴史的な図書館としての足跡を物語り、巻末の「統計」「年表」「索引」は読者の助けになる。

『中之島百年-大阪府立図書館のあゆみ』編集委員会編集『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会 2004.2 xiii, 385, 90p, 図版2枚 ISBN: 4-9901967-0-8

## 運営委員会通信

### ■■ 次回運営委員会のお知らせ ■■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 日 時 3月12日(土) 16時～17時30分
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭課程室
- 内 容 1. 2005年度事業計画・予算について  
2. 2005年度第1回研究例会について  
3. 2005年度研究集会・総会について  
4. 25周年記念事業について

ほか

### ■■ 前回運営委員会の報告 ■■

実施日：2004年12月11日  
場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 『図書館文化史研究』第22号について
2. 2004年度研究集会決算について
3. 『ニューズレター』第91号について
4. 2004年第3回研究例会について
5. 2005年度研究集会について
6. 2005-2007年度運営体制について
7. 研究会ホームページについて
8. 25周年記念事業について
9. 会員動向
10. 次回運営委員会について

## 事務局だより

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2004年度会費をまだ納入されていない方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙と会費納入のお願いの文書を同封しました。至急ご送金ください。年会費は3,000円です。

### ■■ 住所変更のご連絡をお願いします ■■

まもなく異動の季節となります。研究会からの刊行物の送り先について変更が生じた場合、早めに事務局までご連絡ください。『ニューズレター』、『図書館文化史研究』未着等の事故防止にご協力をお願いします。

機関誌『図書館文化史研究』は出版社から皆様のもとへ直送されますが、民間のメール便を使用しています。郵政公社へ住所変更の届出をされても、民間業者には伝達されません。(なお、『ニューズレター』については、当面郵政公社を使用の予定です。)

また現在使用中の宛名ラベルに誤記等がある場合、お手数ですが事務局までお知らせください。

### ■■ 会員動向 ■■

新入会

住居表示変更

住所変更

所属・住所変更